

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人岩手大学

1 全体評価

岩手大学は、国際的な視野を持ち、幅広い教養と深い専門性を備えた多様な人材、高度専門職業人及び研究者の育成を目指すとともに、持続可能な共生社会の形成に寄与することを使命としている。第 2 期中期目標期間においては、大学の特色を活かした地域課題研究及び独創的な研究の推進、教育機関・自治体・産業界等との連携強化等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、アラスカ大学アンカレッジ校（米国）との協働により復興・防災をテーマとした課題設定型国際研修を実施しているほか、仮想的な会社組織において仮想ビジネスを行う「学内カンパニー」について、地元企業・自治体との活動を展開するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

平成29年度に大学院人文社会科学研究科（修士課程）、工学研究科（博士前期課程）、農学研究科（修士課程）の 3 研究科を総合科学研究科（修士課程）に再編・統合することを決定するとともに、総合科学研究科に地域創生専攻を設置し、地域を先導する人材の育成をすることとしている。また、教育推進機構に教養教育センター及びグローバル教育センターを設置し、教員を配置するなど、教養教育・グローバル教育の充実・強化に取り組んでいる。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 子育て支援に係る取組の推進

教職員が病児・病後児保育や産前・産後休暇を取得する場合の支援として、試行的に保育費用の補助や支援職員の採用を行うとともに、いずれも平成28年度から制度化することを決定するなど、子育て支援に係る取組を推進している。

○ 全学的採用促進による女性研究者比率の向上

女性研究者を上位の職位で採用した場合に不足する人件費を補填する「One-Up公募制度」など、学長のリーダーシップの下、全学を挙げて女性研究者の採用促進に取り組んだ結果、女性研究者の採用比率が全学での数値目標20%を大幅に上回る34.6%を達成している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 外部研究資金増加等に向けた迅速な情報提供

外部資金獲得を目指す教員に対して、公募情報を網羅的かつ体系的に整理し、早期のアクセスが可能となるよう、公募情報等に関するウェブサイトを更新し、学内外の競争的資金の公募情報等について分かりやすく情報を発信する体制を整備している。

○ 財務状況を踏まえた今後の見通しの作成と支出抑制

平成27年度予算における財務状況を基に、第3期中期目標期間中における運営費交付金と改組に伴う収容定員減による学納金収入減の見込みを把握し、第3期中期目標期間の財務状況の見通しを作成するとともに、平成28年度予算において支出予算の抑制に努めている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域と連携した実践的防災訓練の実施

災害時に迅速かつ円滑な対応ができる協力体制の確立を図るため、盛岡市と連携して総合防災訓練（参加者約3,500名）を実施し、役員をはじめとする教職員57名と留学生を含む学生30名が、倒壊建物救出訓練、トリアージ訓練、負傷者救急搬送訓練など19の実践的訓練に参加している。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 個人情報の不適切な管理

工学部において、学生の個人情報が記録されたパソコンが盗難される事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学修達成状況を可視化する学修支援システムの導入

学生が自身の単位の取得状況を確認できる「履修状況の見える化」、学位授与の方針の達成状況を自己評価できる「達成度自己評価」の2つの機能を実装したポートフォリオシステムを構築し、卒業時の学位授与の方針に対する学修達成状況を可視化する基盤を整備している。

○ 研究経費の効果的な支援による世界的な成果の創出

「研究拠点形成・重点研究支援経費」及び「地域課題研究支援経費（支援型）」の各研究プロジェクトについて研究経費の配分を行ったことにより、世界に例のないリンゴ・ナシの開花・世代交代促進技術の開発に成功するなどの成果につながっている。また、より効果的な支援を行うため、第2期中期目標期間における支援の費用対効果等の分析を行っている。

○ URA活動成果の検証と更なる拡充

外部資金獲得支援やプロジェクト管理等の全学支援体制の更なる充実に向け、これまでのURA活動の成果と課題について検証を行い、民間企業での研究開発や他機関での産学連携コーディネートの経験を有する者を平成28年度に新たにURA（客員教授）として採用することを決定している。

○ 地域との協働による起業支援

将来起業を目指す学生が仮想的な会社組織において仮想ビジネスを行う「学内カンパニー」について、全学を対象に公募を行って15カンパニーを認定するとともに、学内の関係組織とも連携しつつ、地元企業・自治体との活動を展開している。

○ 復興・防災をテーマとした課題設定型国際研修の実施

アラスカ大学アンカレッジ校（米国）との協働により、陸前高田市でのフィールドワーク等を含めた復興・防災をテーマとした課題設定型国際研修を実施し、この成果を基に大学間交流協定を締結し、連携体制を構築している。

○ 産学官によるグローバル人材育成

岩手県留学生交流推進協議会の事務局として「グローバル語り場ーいわての未来をグローバルな視点で語ろう」を主催し、岩手にある様々なリソースを国内外に広く売り込むためのビジネスモデルについて、県内の企業・自治体関係者及び県内の高校生・大学生・留学生の計50名でグループワークと発表を行っている。